

第4回

地域と連携したイベントプログラムを考える懇談会

配布資料

国営飛鳥歴史公園事務所 キトラ古墳周辺地区
地域と連携したイベントプログラムを考える懇談会（第4回）

日 時 平成22年4月27日（火）

13:30～15:30

場 所 国営飛鳥歴史公園事務所2F会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 所長挨拶
3. 座長ならびに出席者紹介
4. 座長挨拶
5. 資料説明
6. 懇談
7. アンケート記入
8. 閉会

〈配付資料〉

出席者名簿（今回、添付省略）

配席表（今回、添付省略）

資料－1 平成20年度懇談会の成果と今回の目標

資料－2－1 キトラ古墳周辺地区で行う体験的歴史学習について

資料－2－2 キトラ古墳周辺地区 整備スケジュール（案）

資料－3 平成21年度開園前イベントプログラム実施報告

資料－4 地域と連携したイベントプログラムのあり方に関する
アンケート（今回、添付省略）

平成20年度懇談会の成果と今回の目標

平成20年度懇談会の成果

- ①キトラ古墳周辺地区で行う体験的歴史学習およびイベントプログラムについての説明
- ②イベントプログラムのあり方についての共通の認識を得たこと
 - ・地域の「やりたい」と公園の「やってほしい」という思いが一致して正のスパイラルになるようなイベントプログラム
 - ・無理のない連携体制で少しずつ背伸びをしていくイベントプログラム
- ③団体ごとのイベントプログラムへの関わり方のイメージ共有



今回の懇談会の目標

- ①公園と地域の連携のあり方についての意見交換
～開園前イベントプログラムの試行結果をもとに、アイデアや課題等を整理
- ②平成22年度以降の開園前イベントプログラムのイメージ共有

第1回懇談会のまとめ（平成19年12月18日開催）

■活動の課題

- ・活動に関する村民の関心が薄い、村民の参加が少ない
- ・活動メンバーの不足、高齢化
- ・活動拠点の不足
- ・農産加工に用いる農産物の調達（村内産の農産物を使いたいが、生産されていない、生産量が少ない…など）

■キトラ古墳周辺地区でやってみたいこと

- ・地区内の田畑を活用した農産物の栽培と、収穫物の食品への加工
 - ・農産加工の実験的な場として活用
 - ・地域の伝統的な農産物や食品の伝承
 - ・加工品の試食会などの実施
- ・昔の農家で行っていた農業体験やものづくり体験
 - ・地域の高齢者やリタイアされた方が指導
 - ・教える人も習う人も楽しめるイベントプログラム
 - ・「顔の見える」観光客に何度も来てもらうための仕組みづくり
- ・古代飛鳥をイメージできるしかけづくり
 - ・歴史劇などの上演（観光シーズンのミニ公演、パフォーマーによる飛鳥びとの生活再現劇など）
 - ・体験工房でのものづくり（渡来文化・技術の再現）
 - ・ガイド（「語り部」）による飛鳥の紹介（史跡だけでなく明日香の現状、村民の生活など）

■キトラ古墳周辺地区の整備に望むこと

- ・地区内に残る田畑をそのまま生かした公園整備
- ・明日香村内の点在する小さな拠点とのネットワークづくり
- ・ボランティアの活動拠点となる維持管理施設の早期整備
- ・開園までの農地・森林・竹林等の維持管理

■その他

- ・地域が厳しく温かいまなざしで整備を見守ることが必要
- ・公園周辺地域との景観的調和

第2回懇談会のまとめ（平成20年2月13日開催）

■イベントプログラムの方向性について

- ・飛鳥に来た人に、何か体験して帰っていただけるようなイベントプログラムにすべき（例：タケノコ堀り→瓶詰めの二次加工まで体験）。
- ・歴史だけにこだわらず、多様な楽しみ方のできるイベントプログラムを展開し、より多くの人々が飛鳥に興味を持つ入口として機能してほしい。
- ・これから開園まで約10年の時間をかけて、公園と活動団体が相互のニーズをゆるやかにマッチングさせながら、最終的に協力し合っている関係ができるようにしていきたい。
- ・イベントプログラムへのボランティア団体の協力を得るためには、村との連携のもと、村内のボランティア活動全体を支援すべき。

■公園整備・施設整備への意見

- ・立ち寄り・休憩拠点の無い西飛鳥地域において、キトラ古墳周辺地区は周遊の核となる施設になる。
- ・施設（維持管理施設、体験工房、体験学習館等）の検討に参加させてもらいたい。それぞれの活動団体が思い描くイメージも異なるため、共有化する必要がある。また、皆が使うためのルールづくりも必要である。
- ・体験学習館では、現在行っている発掘調査の成果も生かした展示や体験学習をしてほしい。
- ・昔飛鳥にあった広葉樹を植えて、大きな木に育ててほしい。
- ・近隣公園との景観的調和に配慮すべき。
- ・「都市公園化」させないで、飛鳥らしい公園づくりをしてほしい。建築物も飛鳥の景観にふさわしいものにしてほしい。

■今後の運営方法

- ・まずは広く意見を聞くことが大切である（村の総代会への説明、公募による懇談会参加者募集）。
- ・今後は分野別にグループ分けをするなど、効率的な運営をすべき。
- ・1～2年に1回は全体会議を開催し、皆が顔をあわせることが必要である。
- ・まずは地域と連携したイベントの開催など、できるところから取り組んでいくべき。

第3回懇談会のまとめ（平成21年2月3日、13日 分野別に開催）

■活動の課題

- ・高齢化、人手不足が課題（人手不足は団体間の連携でカバー）
- ・拠点となる施設が不足
- ・情報発信（現地に行かないと分からないものの魅力をどう伝えるか）
- ・来訪者への対応（交通、宿泊など）
- ・活動資金（補助金に頼るだけではダメ、活動を維持していくための収入も必要）

■地域と公園の連携のあり方について

- ・公園単独ではできないことを地域と一緒にやりたい
- ・地域の「やりたい」と公園の「やってほしい」が一致して、正のスパイラルになるようなものを（公園が強制すると負のスパイラルになる）
- ・無理のない範囲で、失敗も重ねながら、少しずつ…小さな達成感を得ていくことが大切

■連携体制、実施体制について

- ・通常は各団体が個別に活動→イベントなどは一緒に、というゆるやかな連携体制が大切
- ・村民がもっと関心をもって参加できるようにすべき
- ・若い人をもっと入れるべき（大学との連携も視野に入れる）
- ・どのような体制・関わり方でやっていくかを具体的に検討すべき
（食品加工の場合、①園内での加工食品販売、②イベント時の食の提供、③お客さんと一緒に体験、の3つの関わり方がある）
- ・地域の歴史や受け継がれてきた技術を知る「名人」探しが重要

■イベントプログラムのあり方

- ・地域の人を知る地域の良さを来園者におすそわけできるようなイベントプログラムに
- ・公園で疑似体験、地域で本物を体験
（公園内での活動が地域につながるようなしかけ）
- ・飛鳥に興味を持つ人が喜ぶメニューづくりをみんなで考えるべき
- ・イベントプログラムとして何をやっていくか、イメージを具体化すべき

■イベントプログラムのメニュー・アイデア

- ・体験メニューへのニーズの高まり（修学旅行が少人数・体験型に）→簡単なものを手作りして持ち帰れる体験
- ・リピーターを育成できるようにメニュー・サービスを工夫

- ・ 渡来人の技術や文化をテーマとしたメニュー：古代衣装体験、古代飛鳥のものづくり、大陸から伝わった文化（医学（漢方薬）など）、渡来人の森づくり、韓国との交流など
- ・ 明日香村の郷土をテーマとしたメニュー：飛鳥の伝統行事体験、郷土食を作って食べる体験、わらじや竹細工などのものづくり、里山の景観づくりなど

■公園の施設整備への要望

- ・ キトラ古墳についてきちんと学習できる施設を
- ・ 古代だけでなく飛鳥保存の歴史も紹介すべき
- ・ 屋根付きの体験施設が必要
- ・ 快適な活動拠点を提供してほしい

活動の課題

高齢化・人手不足

- メンバーが高齢化、人手が不足
→いかに若い人を呼び込むか？

試行イベントの実施

キトラのPR重要

- キトラ古墳のPR重要と分かった（古墳を見逃してしまふ観光客が多い）

地域と公園、村行政との連携

- 歴史的風土の雰囲気になりたいという周遊客のニーズ→村行政とも連携必須
- 公園ができること→地域活性化に結びつけたい（阿部山地区）

イベントプログラムのあり方～地域・公園が一緒にやっていたいために～

- 公園で行う体験的歴史学習には、地域と公園が一緒にするもの、公園が単独で行うものの2つがある

＝イベントプログラム

“正のスパイラル”

- 地域の「やりたい」と公園の「やってほしい」が一致して“正のスパイラル”になるように…（公園が強制すると“負のスパイラル”になってしまう）
- イベントが目的化するのは×
- 「やらされる」ものでは×

ちよっとずつ…

- 無理のない体制
- 小さい規模からはじめて、ちよっとずつ背伸びを
- 失敗も重ねながらも小さな達成感を得ていくことが大切
- まずは「私がやってみる」と気楽にできる少人数・小規模イベントから
- 若い人を呼ぶ工夫を（大学との連携等）

公園単独ではできないことを

- 周辺地域と一体となった景観づくりなど、公園単独ではできないことを地域と一緒にやっていききたい
- 公園で疑似体験、地域で本物を体験
- 公園だけでなく、全村かかえこみでやってもいいのでは？

イメージを具体化

- 体験的学歴史習のイメージを具体化すると盛り上がりってくる
- 飛鳥に興味を持つ人が喜びメニュづくり
→公園、地域、団体が一緒に考えて実行（2～3回/年）

公園を“自分化”

- 公園を“自分化”
→地域の人が知る地域の良さを来園者におすそ分け

イベントプログラムのメニュー・手法

もてなしの心

- 飛鳥を思ってくれる人がたくさんいるありがたさ
→「よう来てくれた」というもてなしの心が必要
- 対応する地域の人がもつと必要
- 村の年配者がお客さんにいるいろいろ伝えるべく
- 来訪者は田舎に帰るような素朴さを求めている

自分で作る・作業する

- 難しいことより簡単なことを自分達でやる場に（わらじづくり、竹細工、竹と柿渋のバケツなど）
- 手作業のできる場が村内にもっとあってほしい
- 手作業の時間は時間がかかると会話が始まる（地域の中の会話も生まれる）
- 自分で作る→楽しむ→持って帰るといって一連の流れが必要
- 体験イベントを行うなら、語り部・体験の指導者を地域の人がから募集・育成すべき

メニューのアイデア

〈飛鳥の伝統行事体験〉

- 村の伝統行事（つなかけ、とんど）に関連した体験イベント
- とんどのしかけづくり（竹組みが地区ごとに異なる）
- 川や峠によって区切られた地域ごとに民俗・風習が違ふ

〈渡来人の歴史・文化体験〉

- 渡来人・渡来系文化について伝えていく
- 地域の語り部→ヒアリングをして資料として残しては？

〈古代の森づくり〉

- 古代の森づくりを開園前イベントプログラムとして行っては？
- エリアを定めて昔の風景を再現

〈里山の景観づくり〉

- レンゲや里山花修景などの里山の景観づくり
- “自然”な森づくりを

開園前からの情報発信

- 仮設の施設で展示
- 出前展示・講義の実施

快適な活動拠点を

- 開園までの間にトイレなどの施設の充実が必要

第3回地域と連携したイベントプログラムワーキング（食品加工分野） 意見のまとめ

地域-公園の連携のあり方について

- 開園前/開園後 それぞれの連携のしかたがある
- どんな連携が考えられるか？
→三つの連携のあり方（①販売、②「食」の提供、③お客さんと一緒に体験）

無理のない範囲で

- 苦になるようなものは×
→できる範囲で
- 「楽しくなければやらんところ」
- 適した人が適した活動に参加
- 人手不足はお客さんとの交流でカバー？

ゆるやかな連携

- それぞれが活動し、一緒にできる時はやる、という無理のない連携
- 村の人がもっと「やじうま」になって参加できる体制

現在の活動について

- 村内産、国産など素材へのこだわりが好評、加工品の売れ行きも好調
- 達成感が活動の原動力（お金儲けを目的に活動している人は少ない）

加工所が不足

- 生産量を増やしたくても、加工所が足りない（保健所の許可を得るためには、加工食品ごとに部屋を分けて設備を整える必要あり）
- オリジナルの加工品を開発して好評でも、常時生産できる場（加工所）がないため、イベント時にしか作れない
→商品として広がらない

人手不足→横のつながり

- グループ単独では活動が難しい（人手不足、保健所の許可等）
→アグループに横のつながりができ、共同体に
- いろいろなグループが一緒に活動するの楽しい

①公園内での

加工食品販売

- 村内や公園で余った生産物を引き受けられるのが加工グループ。捨てるのはもったいない。すべて加工食品の食材として活用したい。
（加工所があればもっと引き受けられるのに…）
- 例えば、しいだけを公園でつくり、その場で食べる
→（余ったら）
来園者が持って帰る
→（さらに余ったら）
佃煮などに加工
というように、イベントや体験学習で発生した余剰生産物を引き受けられること

②イベント時の

「食」提供

- イベント時などに依頼があれば対応は可能
（明日香まるごと体験ウォークにて、村より依頼されて7つの加工グループで参加（各グループ1人ずつ参加）、おにぎり等を提供）
- 古代食を自分達で開発するのは大変！
- 公園側からしかけられれば、「やろつか？」という気持ち（ボランティアとは違う）

③お客さんと一緒に体験

- 来園者と一緒に体験→すごくいい！
- 100%サービス提供は大変だけど、お客さんが動いてくれれば負担は減る
- 観光客にとって「体験+持ち帰り」はすごく魅力があるもの
- 修学旅行の受け入れを本格化して体験客を増やしては？

明日香の郷土料理

- 「行事」と「食」は昔は一体だった→郷土料理の復活（村内でも地区ごとに異なる）→公園でお客さんと一緒に作っては？
- 明日香の郷土料理「こんなものがあった！」
・小麦餅（田植えの後に食べた）
・シウウガ漬（シウウガの採れる季節に作り、ご飯にまぜて食べる）
・五色のかきもち（大寒の日に）
・お正月のお雑煮（味噌仕立ての雑煮に入れたお餅を取り出して、こしあんをつけて食べる）
- 村内では普通のことでも、外から来た人には新鮮！
- 明日香の生活や風景の中で食べることが大切
- 外の人からの評価が必要、写真などで記録しては？
- 民俗的資料としても貴重なもの「環境・文化暦」

← 余剰生産物の受け皿として…

キトラ古墳周辺地区のあり方

飛鳥西南部の拠点

- キトラ古墳等の話題で飛鳥西南部を訪れる人が増えている

大陸との交流をテーマに

- 韓国等とも交流できるといい
- 渡来人→医学（漢方薬）も伝授
- 橿原地区では地域の歴史についての勉強会を実施
- 古代だけでなく飛鳥保存の歴史も紹介してほしい

西飛鳥の拠点に

公園に望むこと

施設整備

- キトラについてきちんと学習できる施設を！
- 古代だけでなく飛鳥保存の歴史も紹介してほしい

→キトラの特色になる

屋根つきの体験施設

- 飛鳥観光の弱点は、屋根のある施設が少なく天候に左右されること
- 屋根の下で安心して体験できる施設が必要

地域との連携

- 連携できるようなやり方、手法を工夫
- 地域と公園の連携→地元参加の行事も検討しては？
- “名人さがし”が大切（地域の歴史・技術を知る人）
- 大字との相互交流が必要

現在の活動状況、課題

活動場所、拠点の不足

- 活動場所やスペースが不足（見学対応、安全対策）
- 公園の施設にも入れてもらえれば（他の施設との兼ね合いあり）
- 来訪者に見ていただく機会が増える
- 活動の活性化、モチベーションのアップ

情報発信

- ガイドブックに出てくるものと、現地に行かないと分からないものがある
- 現在に至るまでの村の経緯を知ってほしい
- 里山クラブは情報発信が上手

来訪者への対応（宿泊・交通など）

- 交通手段と休憩・宿泊が必要
- 周遊歩道も整備必要
- 現在、村内の民宿（昭和40年代～）は半減
- 民泊からはじめてみては？

活動資金

- 収入を得ることも必要（補助金に頼るだけではダメ）

メンバーの不足、高齢化

何が必要？

楽しみながら飛鳥(古代～現代)を知ることのできる地区に

“体験”のニーズ高い

- 修学旅行は体験型に（ただし京都に泊まるため飛鳥での滞在時間少ない！）

どんな体験を？

イベントプログラムのアイデア

簡単なものを作り

- 簡単なものでいいので自分で手作りすると、記念になる
- 観光客にとって「体験+持ち帰り」はすごく魅力があるもの
- 修学旅行の受け入れを本格化して体験客を増やしては？
- 地区内の竹を使って、琴をつくってみては？（八雲琴をテーマに）

お客さんがパフォーマーに

- 古代衣装をお客さんが着てパフォーマーになったら？

リピーターの育成

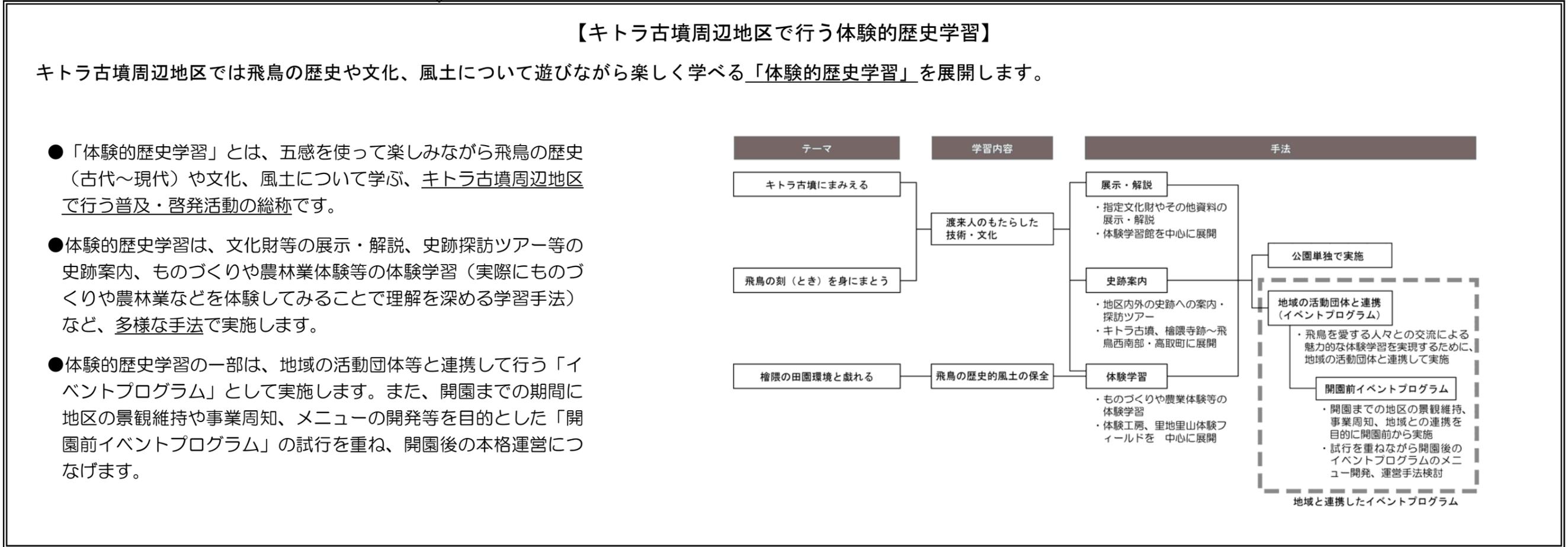
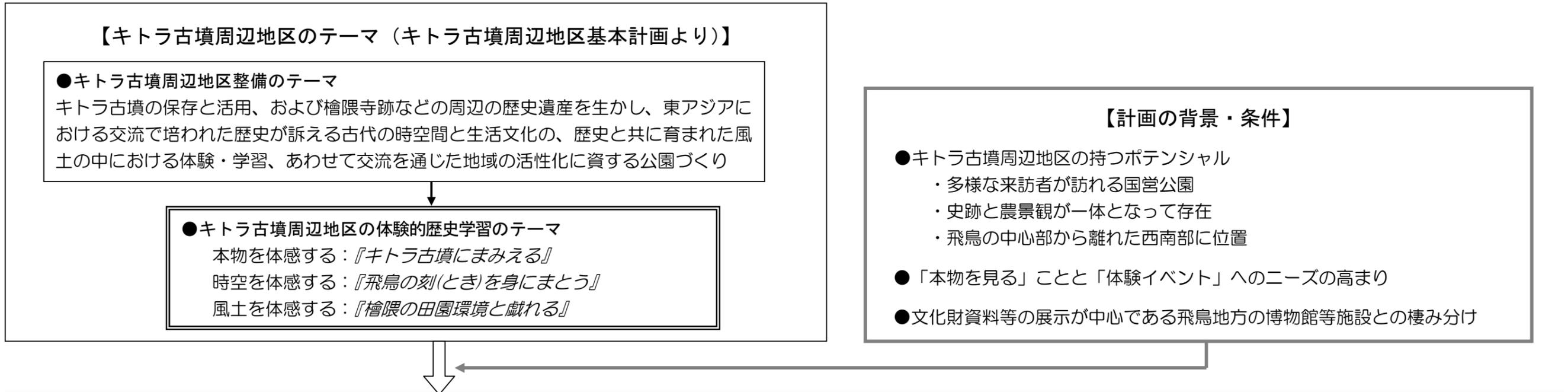
- イベントを実施→リピーターを育てる
- サービスも必要

子どもを対象としたイベント

- 里山クラブは小学校団体が対象
- 地区内の竹を使って、琴をつくってみては？（八雲琴をベースに）
- 開園前の田んぼで米づくりをしては？
- 修学旅行の受け入れを本格化して体験客を増やしては？

キトラ古墳周辺地区で行う体験的歴史学習について

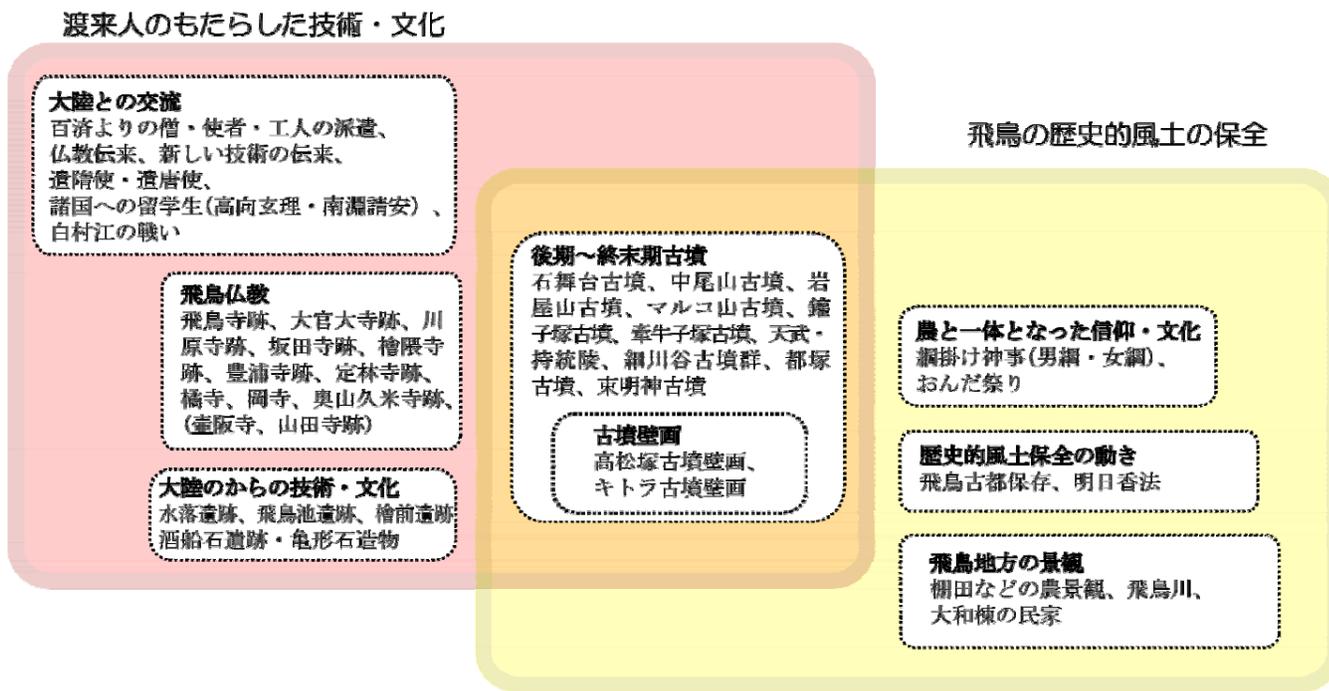
(1) 体験的歴史学習とは



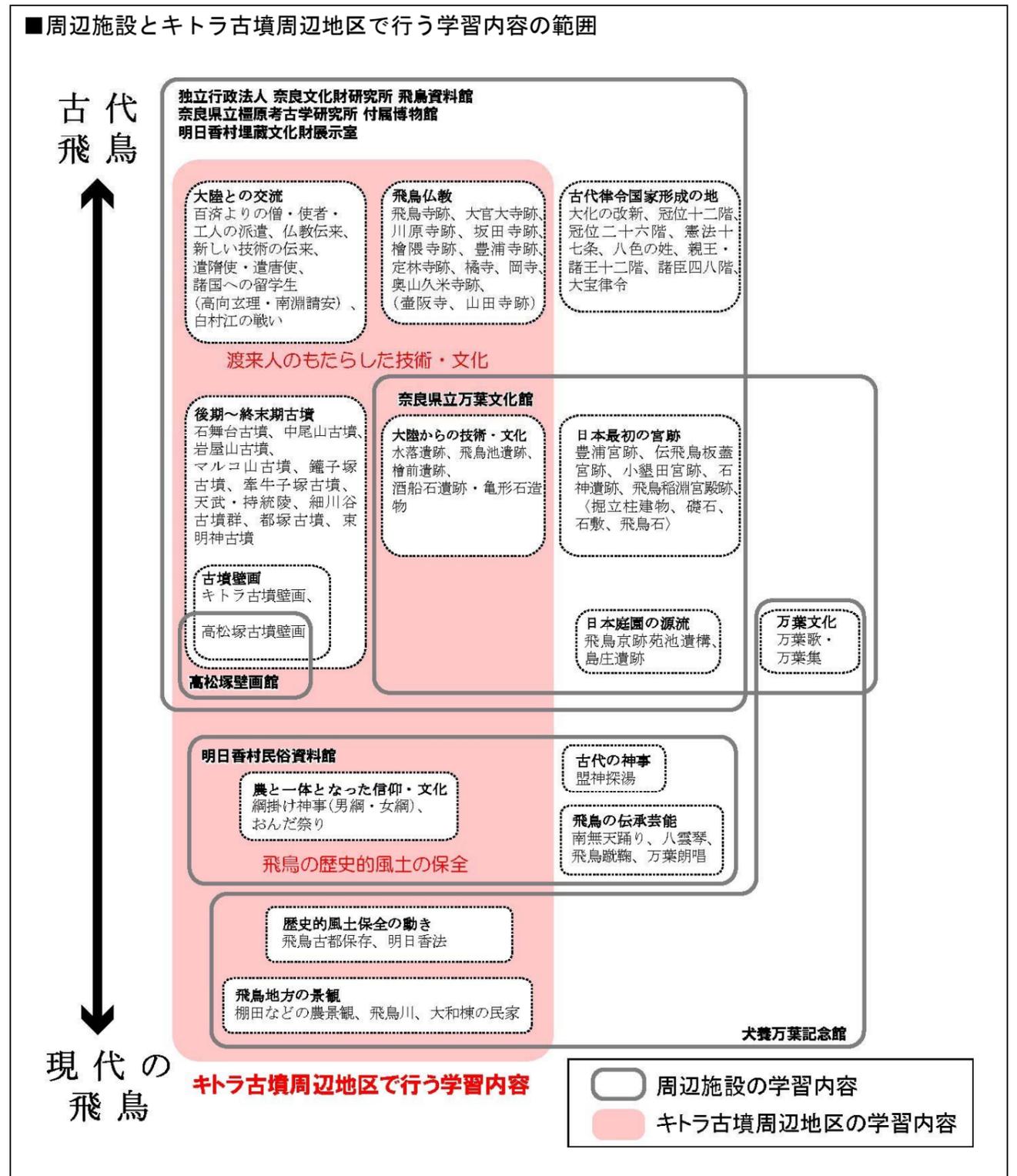
(2) 体験的歴史学習の学習内容

- キトラ古墳周辺地区では、「渡来人もたらした技術・文化」と、「飛鳥の歴史的風土の保全」の二つの学習内容を軸に、古代飛鳥の歴史の中でも、キトラ古墳や檜隈寺跡、飛鳥西南部・高取地域の歴史的資源を活用し、渡来人もたらした技術・文化の体験を通じて、大陸からの文化を積極的に取り入れ発展した飛鳥時代への理解を深める内容とします。
- 本地区での体験的歴史学習をきっかけとして、来園者が地区外の歴史学習施設や史跡、地域の活動拠点に足をむけるような内容とします。

■キトラ古墳周辺地区で行う学習内容の範囲



■周辺施設とキトラ古墳周辺地区で行う学習内容の範囲



■キトラ古墳周辺地区で行う学習内容（案）

学習内容		学習項目
渡来人がもたらした技術・文化	<p>【渡来人の足跡】 飛鳥時代に朝鮮半島からやってきた渡来人が、飛鳥の地でどのような生活をし、古代国家の形成にどのように関わったかを、展示、演劇やパフォーマンス、暮らし体験、史跡案内などにより、来園者にわかりやすく伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●いつ？どこから？ (雄略二年～朝鮮半島(百済・加耶・新羅など)) ●どのような人々が？ (東漢氏(桧隈氏、身狭氏など)、西漢氏、秦氏など 職人・工人・技術者) ●どのようなルートを通って？ (紀路) ●飛鳥地方のどこに住んだの？ (明日香村桧隈～高取町観音寺周辺(桧隈氏)、橿原市南部(身狭氏)) ●どのような暮らしをしたの？ (集団居住、大壁造・オンドル式住居) ●飛鳥の都でどのようなはたらきをしたの？ (大伴氏・蘇我氏・朝廷との交流・技術提供、国家形成に貢献)
	<p>【渡来人もたらした技術・文化】 渡来人がもたらした技術や文化について、実物資料(出土資料)の展示や古墳・遺跡への案内、ものづくり体験等を通して、理解を深めてもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●古墳築造 (技術、壁画、天文図等にみられる風水思想、葬送儀式) ●キトラ古墳 (キトラ古墳の歴史、築造技術、壁画、発掘の経緯、発掘調査・壁画保存技術など) ●飛鳥仏教 (寺院建築、仏像) ●檜隈寺 (檜隈寺跡の歴史、寺院建築、出土品、瓦、発掘の経緯・エピソードなど)
		<ul style="list-style-type: none"> ●建築・土木 (建築技術、土木技術、瓦の製造、石材加工) ●経済・法律・暦 (貨幣、暦、漏刻) ●工芸 (金属加工(金・銀・銅・鉄)、玉類(ガラス・水晶・琥珀)の生産、漆芸、鼈甲細工など) ●食品・薬 (食材生産技術、調理・保存技術、食器(金属器・漆器・木器・土器)、薬草・製薬技術) ●軍事 (武術・馬術)
全 飛鳥の歴史的風土の保	<p>【飛鳥の魅力とは】 史跡と自然が一体となった飛鳥の風土の魅力や、写真や映像などの展示や、実際に歩いて感じてもらうとともに、どのような経緯で飛鳥が守られてきたのかを解説する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●飛鳥の魅力(飛鳥の風土の魅力) (飛鳥の文化的景観(古代の歴史的資産、美しい田園景観、そこに暮らす人々の生活)) ●飛鳥保存をふりかえる (高松塚古墳壁画発見に端を発する飛鳥ブーム、飛鳥古京を守る会の活動、御井さんの直訴状、明日香法制定、国営飛鳥歴史公園開園)
	<p>【飛鳥を守るために】 飛鳥の風土を守るための取り組みをリアルタイムで情報発信するとともに、園内での農業体験や里山管理体験、明日香の伝統行事体験などの体験学習を通して、飛鳥の歴史的風土とその保全に関心を持ってもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●飛鳥を守るために(飛鳥の歴史的風土の保全) (国・村の施策、国営飛鳥歴史公園の事業、景観ボランティア・棚田オーナー・伝承芸能保存等の村内外の活動) ●飛鳥の農林業を守る (農林業体験) ●飛鳥の風景・景観を守る (風景づくり体験・里山管理体験) ●飛鳥の伝統文化を守る (飛鳥の行事体験、郷土食体験、昔ばなし)

キトラ古墳周辺地区 整備スケジュール (案)

■キトラ古墳周辺地区 整備スケジュール (案)

エリア	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
全体スケジュール	用地取得										
	基本設計										
	文化財調査										
	実施設計										
	工事										
	開園										
体験的歴史学習に係る検討	体験的歴史学習内容の検討			基本構想	基本計画						
	施設整備				構想に反映	基本設計	実施設計	本体工事	展示工事		
	文化財発掘調査			文化財発掘調査							
各エリアの整備スケジュール	キトラ古墳周辺環境保全エリア			文化財調査	実施設計		工事				
	歴史体験学習エリア			文化財調査		実施設計		工事			
	歴史的風土保全活用エリア			文化財調査		実施設計		工事			
	檜隈寺跡周辺環境保全エリア			文化財調査		実施設計		工事			

※平成28年度の開園を目標として作成しています。

(予算額や、関係者との調整の状況に応じて、各区分は前後する可能性があります。)

■平成22年度工事予定箇所



国営飛鳥歴史公園 キトラ古墳周辺地区 平成21年度開園前イベントプログラム実施報告

●今年こんなことを行いました

平成21年11月3日(火・祝)に開催された明日香村のイベント「明日香まるごと体験ウォーク」の一環として、国営公園ではキトラ古墳周辺地区内でミニスタンプラリーを開催し、お客さんに地区内を巡っていただきながら、公園整備についてのPRを行いました。

また、地区内の各会場では、地域や活動団体の方々が古代の歴史や農林業、食などそれぞれの分野の体験を提供し、たくさんの体験ウォーク参加者が訪れました。

開園前イベントプログラムの目標

- ①地域と連携した公園事業の実施
- ②キトラ古墳周辺地区のPR
- ③開園後のイベントプログラムのメニュー検討
- ④開園前の地区の景観維持

キトラ古墳周辺地区 ミニスタンプラリーマップ



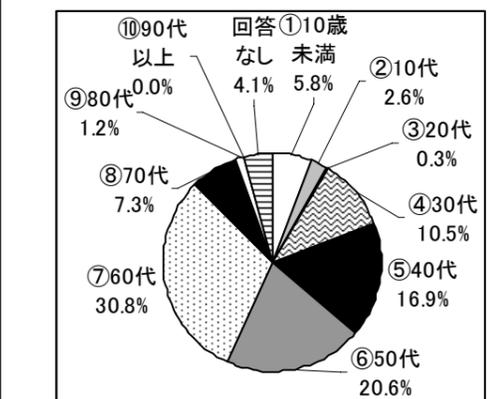
飛鳥の歴史や文化を体感できるキトラ古墳周辺地区

キトラ古墳周辺地区は、キトラ古墳や檜隈寺跡の周辺環境を保全しながら、飛鳥地方の歴史や文化について、各種の体験を通じ、楽しく学ぶことのできる「体験的歴史学習」の拠点となるよう、整備を進めることにしています。そのため、渡来人がもたらした大陸文化や技術を体感できる「体験工房」や、棚田景観の保全・再生に参加型で取り組む「里地里山体験フィールド」などを計画しています。詳しくは、国営飛鳥歴史公園ホームページをご覧ください。http://www.asuka-park.go.jp/kitora_info/index.html

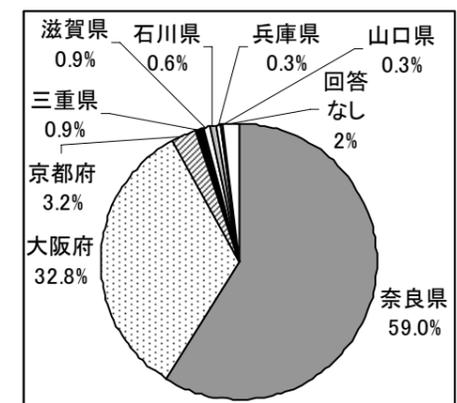


こんな方が参加されました
～アンケート結果より
スタンプラリーに参加された方にアンケート調査を行いました。(回答数: 344票)

●参加者の年齢・性別・居住地

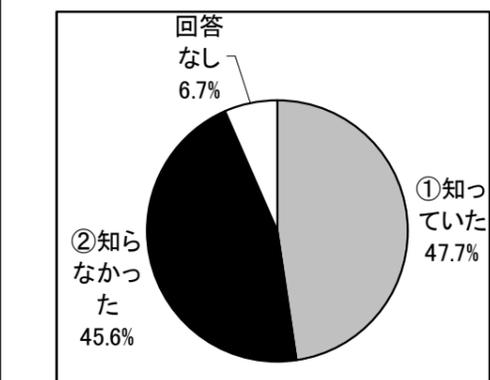


- ・男女比はやや女性の方が多
(男性 40%、女性 55%)
- ・約 6 割が奈良県、3 割が大阪府に居住



(奈良県内では、橿原市、奈良市、大和高田市、高市郡などの近隣地域からの参加が多かった)

●キトラ古墳周辺地区の整備について



▲当日配布したスタンプ帳。裏面では各会場の体験内容を紹介するとともに、キトラ古墳・檜隈寺跡の解説を行った。

各会場の様子

キトラ古墳周辺地区内

●スタンプラリー（国営飛鳥歴史公園）

今年は、来訪者にキトラ古墳周辺地区を巡っていただき、理解を深めていただくため、新たにスタンプラリーを行いました。4箇所に四神のスタンプ設置、将来の整備イメージが分かる立て看板を配置し、好評を得ました。



▲スタンプ帳を配布し参加をよびかけました



▲四神のスタンプを押しながら各会場を巡ります



▲約 500 名の方が参加されました



▲各所に立看板を設置し公園整備と体験会場をPR

参加者の声（アンケート自由意見より）

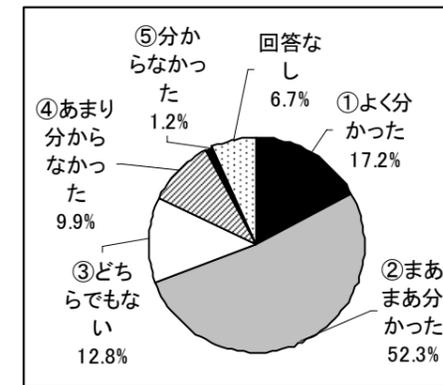
- ・訪れるきっかけとなりました
- ・まるごと体験ウォークと一緒にとてもよかったです
- ・小学生でも体験でき（歴史）楽しめました。
- ・子どもがしっかりと歩け、楽しめる企画をお願いします。

アンケート調査結果より

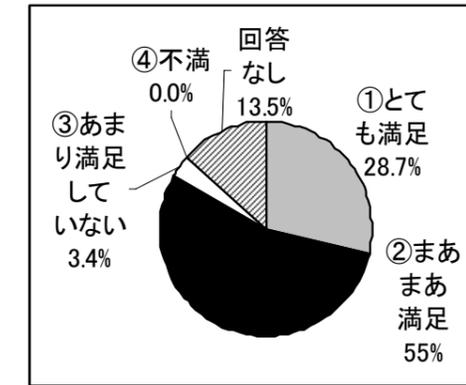
●ミニスタンプラリーの効果・満足度

- ・参加者の約7割がミニスタンプラリーに参加したことでキトラ古墳周辺地区への理解が深まったと回答した。
- ・参加者の約8割が満足と回答した。（とても満足 29%、まあまあ満足 55%）

■キトラ古墳周辺地区への理解度

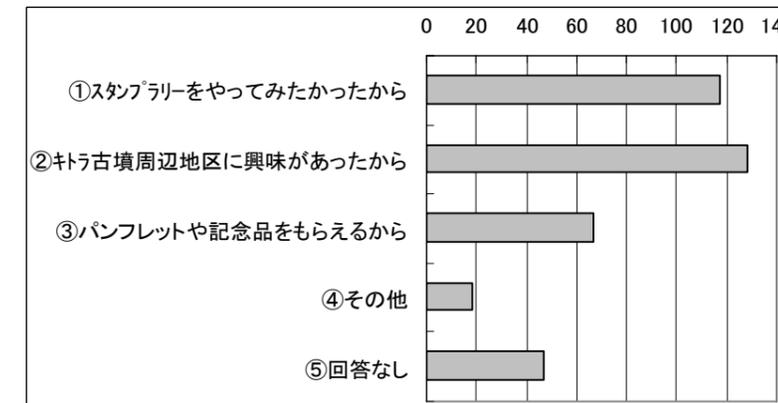


■ミニスタンプラリーの満足度



●ミニスタンプラリーの参加理由

- ・「キトラ古墳周辺地区について興味があったから」と「ミニスタンプラリーをやってみたかったから」が多く、参加者がキトラ古墳周辺地区に興味を持っていることが分かった。



阿部山会場

●コスモスの摘み取り体験（阿部山大字）

昨年に続き、今年も阿部山地区の皆さんがキトラ古墳前の公園用地を活用して「コスモスの摘み取り体験」を行いました。摘んだ花のラッピングなど、行き届いたサービスが好評でした。



▲コスモス摘みの様子



▲摘んだ花はラッピングして手渡しました

参加者の声（アンケート自由意見より）

- ・コスモスが大好きだから参加しました。
- ・楽しかったです。コスモスの花は地域で（大阪で）飾ります。

●キトラ古墳壁画パネル展（阿部山大字）

明日香村教育委員会の協力を得て、キトラ古墳の壁画の写真を展示しました。壁画をじっくり鑑賞できたこと好評でした。



▲壁画パネル展の様子



▲古墳前では阿部山地区スタッフが解説

参加者の声（アンケート自由意見より）

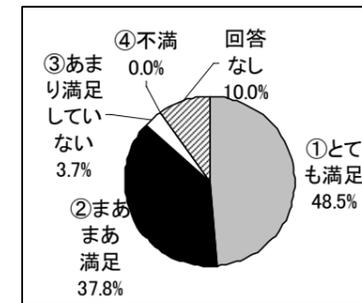
- ・古墳のつくられた理由、作り方（どうしてこう作ったのか）など説明があるといいと思います。
- ・係の人に質問できればよかったです。

アンケート調査結果より

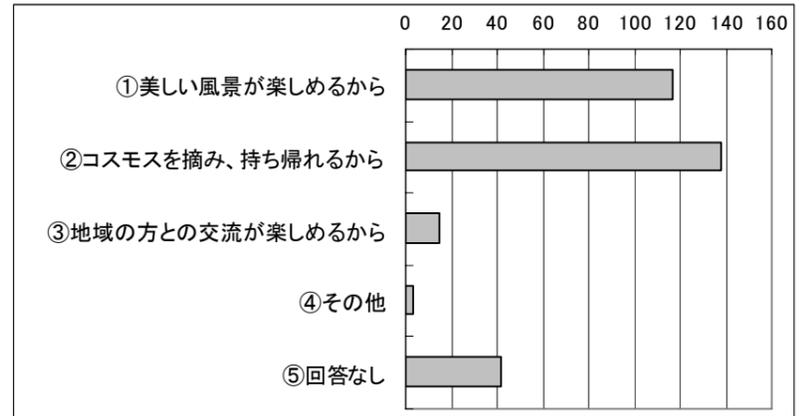
●コスモスの摘み取り体験の満足度・参加理由

- ・8割以上が満足と回答し、特に「とても満足」との回答が5割を占めるなど、満足度が高い結果となっている
- ・参加理由として、「コスモスが持ち帰れる」とともに「美しい風景が楽しめる」が多く、風景を楽しむことへのニーズが高いことが分かった。

■コスモスの摘み取り体験の満足度



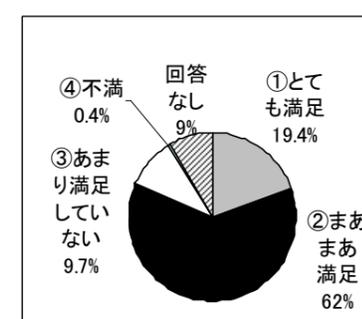
■コスモスの摘み取り体験への参加理由



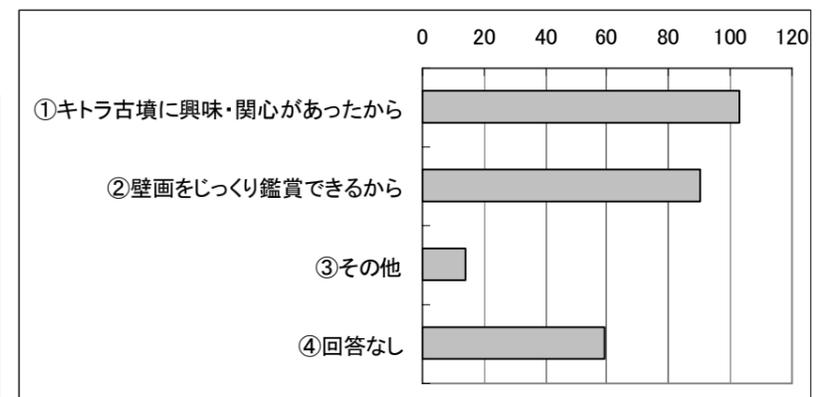
●キトラ古墳壁画パネル展の満足度・参加理由

- ・参加者の約8割が満足と回答した。（とても満足 19%、まあまあ満足 62%）
- ・パネル展示のみであるが多くの人が参加しており、キトラ古墳壁画への関心が高いことが明らかになった反面、解説員の配置への要望があった。

■キトラ古墳壁画パネル展の満足度



■キトラ古墳壁画パネル展への参加理由



昼食会場

●飛鳥の「食」体験（明日香村、食品加工グループ）

明日香村の飛鳥鍋のふるまいや、村内の食品加工グループの皆さんによるお弁当等の販売が行われました。会場内は長蛇の列ができるほどたくさんの参加者が訪れ、あっという間に売り切れてしまいました。



▲昼食会場の様子



▲お昼前には長蛇の列ができました

参加者の声（アンケート自由意見より）

- ・寒かったのであたたかいのをいただきおいしかったです
- ・お弁当と鍋がよく合っていました。お茶も一緒に販売すればなおよろしい。

●木工体験（明日香村森林組合）

明日香村森林組合が木工体験を開催しました。焼印体験（無料）や万能箱づくり等のクラフト体験（有料）が好評で、こちらも長蛇の列ができました。



▲焼き印体験、万能箱づくりなど、「記念になるものができる」と好評でした

参加者の声（アンケート自由意見より）

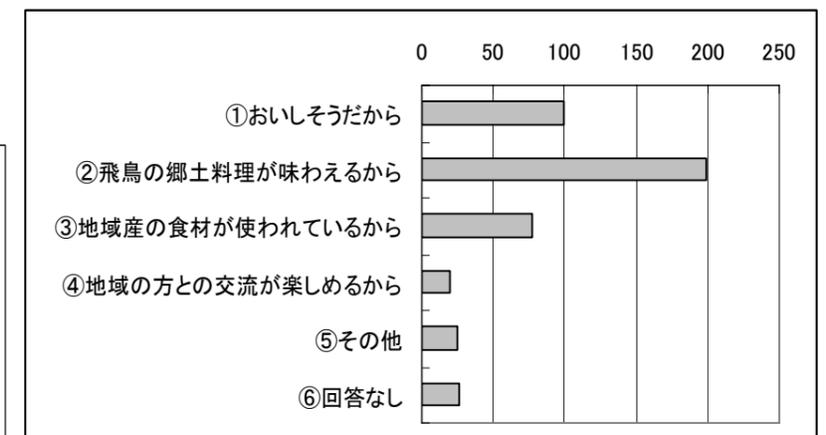
- ・木工体験が楽しかった。
- ・（杉の焼き印を）お守りにします。

アンケート調査結果より

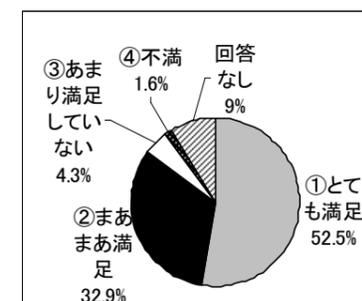
●昼食会場の満足度・参加理由

- ・8割以上が満足と回答し、特に「とても満足」との回答が5割を占めた。
- ・参加者の満足度は高い反面、会場が狭いこと、座れないこと、人が多すぎて並べなかったり、売り切れ等で食べられなかったことによる不満もあった。
- ・参加理由として、「飛鳥の郷土料理が味わえるから」が最も多く、次いで「おいしそうだから」「地域産の食材が使われているから」が多かった。

■昼食会場への参加理由



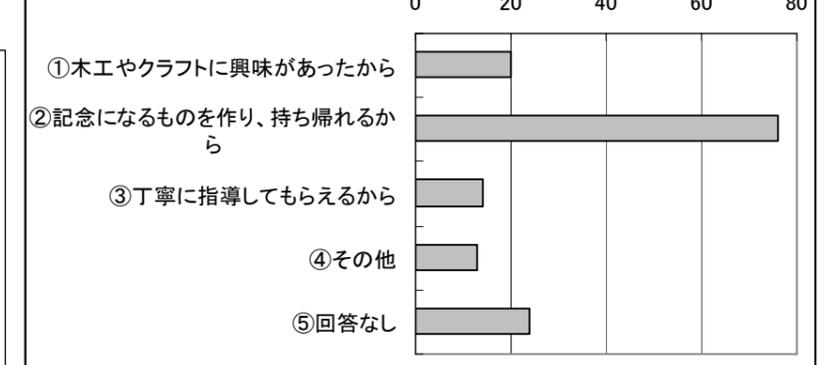
■昼食会場の満足度



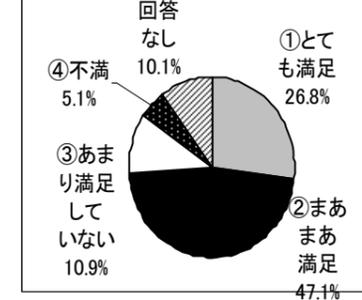
●木工体験の満足度・参加理由

- ・参加者の約7割が満足と回答した。（とても満足27%、まあまあ満足47%）
- ・反面、一人一人の体験に時間がかかり、長蛇の列ができるなど今後の課題も伺えた。

■木工体験への参加理由



■木工体験の満足度



檜前会場

●檜前遺跡群現地見学会（明日香村教育委員会）

公園整備に先立つ埋蔵文化財調査で発見された「檜前遺跡群」の遺構を公開する現地見学会を体験ウォークと同時開催しました。明日香村教育委員会が見学者に解説を行い、「発掘調査現場が見学できる」と好評でした。



▲現地見学会会場の様子



▲教育委員会が解説を行いました

参加者の声（アンケート自由意見より）

- ・公園できるのが楽しみです

●渡来人の郷「檜隈」の歴史案内（檜前大字）

檜前大字の方々が、ウォークラリー参加者に近年新たな発見があった檜隈寺跡や檜前遺跡群に関する資料を配付し、地域の歴史についての解説を行いました。



▲檜隈寺跡（神社境内）で行いました



▲檜隈寺跡等についての質問に地域の方が答えました

参加者の声（アンケート自由意見より）

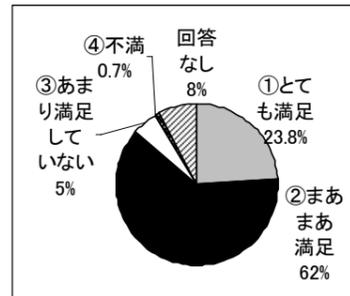
- ・（檜隈の歴史を）知らなかった。
- ・檜前初めて見せてもらって良かった。

アンケート調査結果より

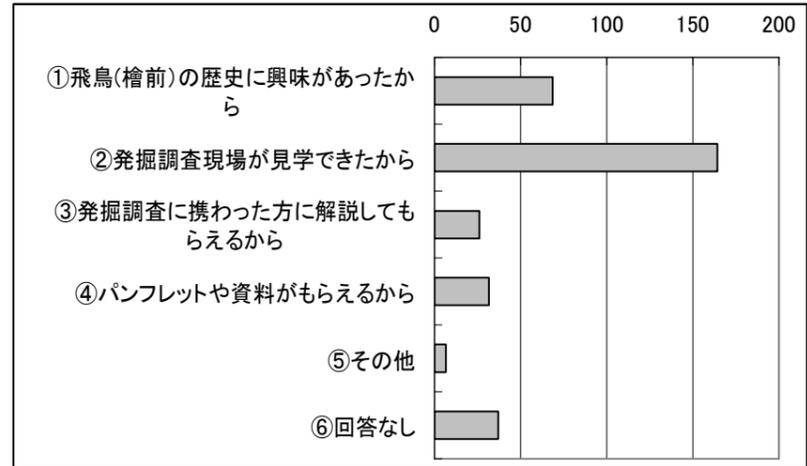
●檜前遺跡群現地見学会の満足度・参加理由

- ・参加者の約9割が満足と回答した。（とても満足 24%、まあまあ満足 62%）
- ・参加理由として「発掘調査現場が見学できたから」が最も多く、次いで「檜前の歴史に興味があるから」が多かった。

■檜前遺跡群現地見学会の満足度



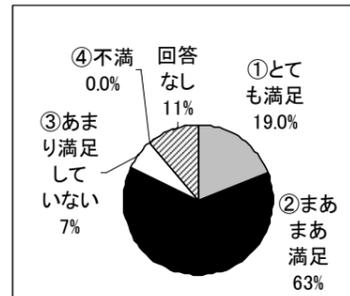
■檜前遺跡群現地見学会への参加理由



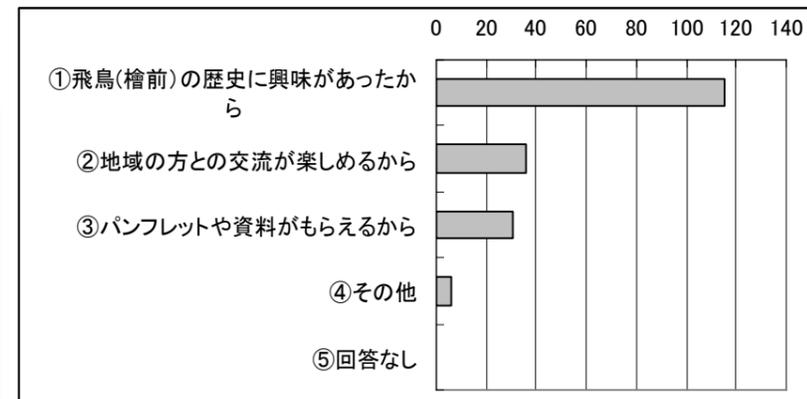
●渡来人の郷「檜隈」の歴史案内の満足度・参加理由

- ・参加者の約8割が満足と回答した。（とても満足 19%、まあまあ満足 63%）
- ・参加理由として「檜前の歴史に興味があるから」が最も多かった。また、「地域との交流」を理由にしている参加者も一定数あった。

■「檜隈」の歴史案内の満足度



■「檜隈」の歴史案内への参加理由

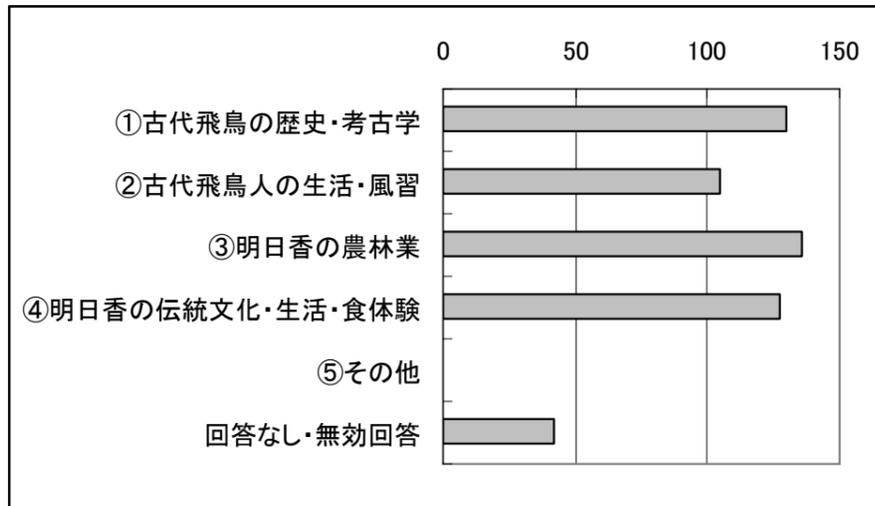


●こんな分野・手法のイベントプログラムが求められています ~アンケート調査結果より

■参加してみたいイベントプログラムの分野

- ・「明日香の農林業」、「古代飛鳥の歴史・考古学」、「明日香の伝統文化・生活・食体験」が多く、次いで「古代飛鳥人の生活・風習」が多かった。

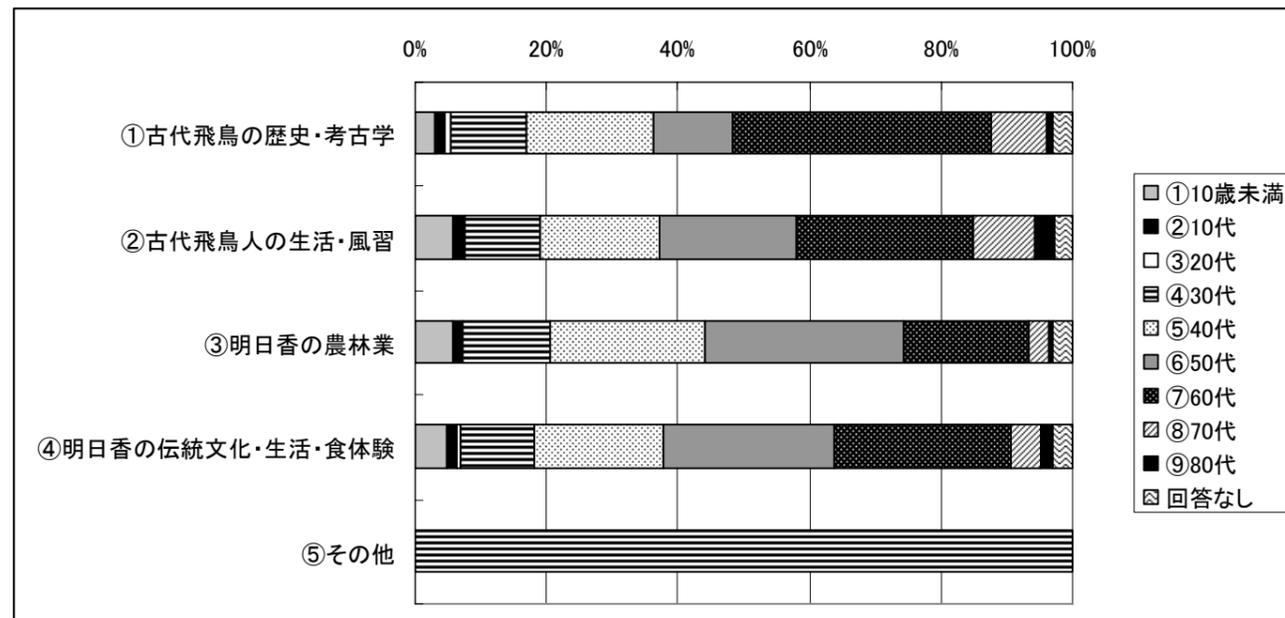
■参加してみたいイベントプログラムの分野



→年齢別にみると…

- ・10代および30~50代は「明日香の農林業」や「明日香の伝統文化・生活・食体験」へのニーズが高かった。
- ・60代以降は「古代飛鳥の歴史・考古学」「古代飛鳥人の生活・風習」へのニーズが高かった。

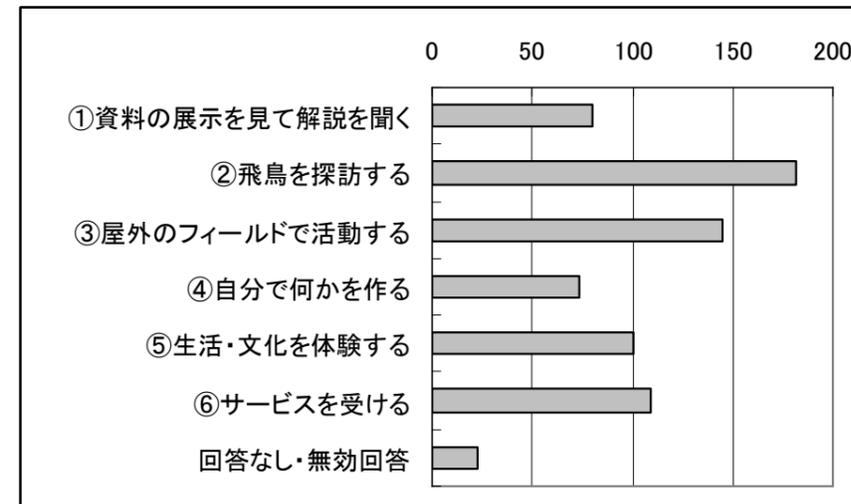
■年齢別にみた参加してみたいイベントプログラムの分野



■参加してみたいイベントプログラムの手法

- ・「飛鳥を探訪する」が最も多く、次いで「屋外のフィールドで活動する」「サービスを受ける」「生活・文化を体験する」が多かった。
- ・「資料の展示を見て解説を聞く」「自分で何かを作る」は比較的少なかった。

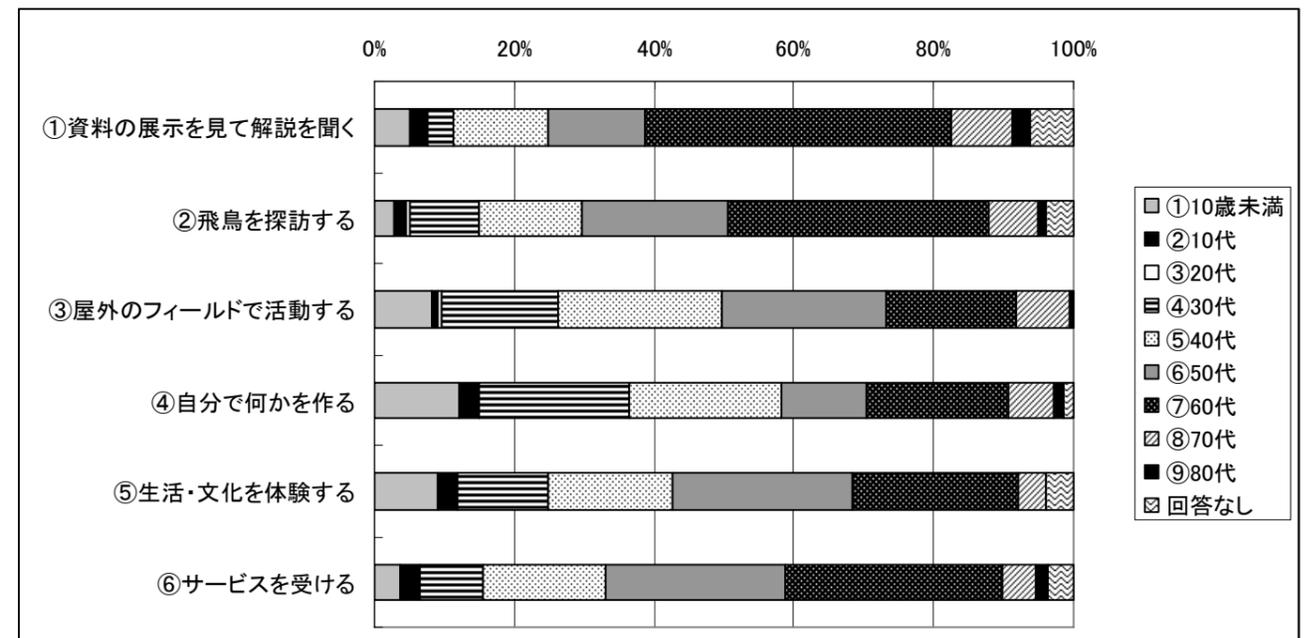
■参加してみたいイベントプログラムの手法



→年齢別にみると…

- ・10代は「自分で何かを作る」「生活・文化を体験する」「屋外のフィールドで活動する」へのニーズが高かった。
- ・30~50代は「屋外のフィールドで活動する」「生活・文化を体験する」「サービスを受ける」ことへのニーズが高かった。
- ・60代以降は「資料の展示を見て解説を聞く」「飛鳥を探訪する」ことへのニーズが高かった。

■年齢別にみた参加してみたいイベントプログラムの手法



■ イベントプログラムへの意見・要望（自由意見）

□ イベントプログラムへのアイデア

- ・ 子どもも楽しめる体験型のイベントの実施
 - ・ 農業体験・収穫体験、古代の農耕・植生の復元等
 - ・ 古代の生活体験（衣装、食事等）
- ・ 古墳についての展示・解説の充実
- ・ 他地域との共同・交流イベント、学生との協働

□ 公園整備・事業のPRについて

- ・ 説明を分かりやすく、補足説明等を充実すべき、個所個所に説明があればベスト
- ・ もっとPRして人を呼ぶように

□ 施設整備について

- ・ 交通、駐車場の整備等の充実
- ・ 昔からの風景や自然を壊さないように

□ 体験ウォークの感想

- ・ 楽しかった。ありがとう。
- ・ 秋の収穫だけでなく、春や初夏でも行ってほしい
- ・ もっとゆったりした催しに
- ・ トイレが少ない、犬の糞が多い など

